

◎ 2 学年

学級担任

2年1組	野口	正樹
2年2組	安藤	進一
2年3組	尾崎	司郎
2年4組	平木	弘一
2年5組	古城	克也

1. 基本方針

学校の教育理念・教育目標の定着を図る。

1. 1 理念・目標を各教科の授業に反映させる。

2. 平成16年度実施計画

2. 1 ショート・ホームルームの実施

[1] 始業10分前の登校を促し、第1時限から授業に集中できるよう姿勢を整える。

毎日、8時30分からショート・ホームルームを行った（火曜日は専門学科別に専門の教員が行った）。再三の指導にも関わらず、一部の学生は8時30分には間に合わせられなかった。

2. 2 学生の授業出席の改善

[1] 毎日の出欠、遅刻、早退を調べ、指導し、改善をはかる。そのためには、専門教科の出席連絡を依頼する。

専門科目の各担当教員からその都度E-mailで出欠状況を送ってもらった。無断欠席や遅刻の多い学生に対しては適宜指導した。

2. 3 教室の清掃・整備の徹底

[1] 教室環境を毎日整備し、授業への集中を促進する。

週1回以上の清掃を行い、ゴミの分別についても頻繁に指導した。

2. 4 予習・復習の実行促進

[1] 学力の修得のため、予習、復習の習慣化を目指す。

とくに学力不振者には適宜、指導を行い、保護者にも協力をお願いした。

2. 5 アドバイザーによる指導の促進

[1] 勉学意欲を増進させるために、学科との連絡を密にして学生への指導をより密なものにしていく。

問題のある学生について、アドバイザーに学科での状況を聞き、協力して問題の解決にあたった。

2. 6 オフィス・アワーの活用

[1] オフィス・アワーの活用を通じて、不得意教科の克服や学力の修得を目指す。

数学・物理を不得意とする学生に、ティーチング・アシスタントを受講するように促した。

2. 7 留年生を出さないような対策を講じ、進路変更者にはきめ細かい指導をする。

学力不振者には適宜個別指導を行い、また、保護者にも2回の懇談会などを通じて連絡し、家庭での協力をお願いした。進路変更を希望する学生にも、本人、保護者が納得できるような進路指導を行った。

2. 8 アルバイトや身だしなみ指導

アルバイトについては、再三「アルバイト届」を提出するように指導し、標準服の着用、茶髪・ピアスの禁止についても、再三指導したが、一部の学生は応じなかつ

た。保護者にも文書や個別連絡などで協力をお願いした。

2. 9 読書や活字に親しむ機会の増進

[1] 文献や書籍を紐解くほか、図書館の利用を促し、学力の修得と視野の拡大を目指す。

特別活動で図書館利用活動を行い、折にふれて読書を奨励した。

2. 10 学級担任会の開催

[1] 随時開催し、情報交換を通じて、教育のあり方や成績不振者の指導を検討する。

2年担任が新しい学校運営方針に基づいた、保護者あての共通の依頼事項を文書にして郵送し、協力をお願いした。また、低学年教育委員会などを通じて、成績不振者に関する情報、指導方法などを意見交換した。

○ 総括的な評価と課題

2年担任は上記の実施計画ならびに学級経営計画に基づき、足並みをそろえて学生の指導に当たり、おおむね計画を達成できたと総括する。低学年の指導に当たっては、担任や低学年教育委員会だけでなく、教務委員会、学生委員会などの各組織の協力が必要である。